

式 辞

例年よりも寒かった冬の影響か、今年は春の訪れがいつもより遅いようでしたが、ちょうど桜の花も咲き始め生命の躍動を感じられる様になって参りました。本日ここに、ご来賓の皆さま、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和4年度の入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであり厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今入学を許可いたしました三百十八名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。こうして今拝見する皆さんの顔を見ると、ここ深志ヶ丘で学ぶ機会を自らの手にすることができた喜びをかみしめているように見受けられます。今日の喜びは、皆さんのこれまでの努力の結晶であることは勿論ですが、その影には皆さんを慈しみ育ててくれた御家族や先生、周囲の皆様方の愛情や苦労があったことを忘れてはなりません。それら数多くの善意や声援に深い感謝の気持ちをこれからも持ちつづけてください。皆さんの今後の学校生活が充実したかけがえのないものとなることを心より期待しております。

また、本日ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学誠におめでとうございます。今日のこの日まで、我が子の成長のために骨身を惜しまず文字通り手塩にかけて養育されましたご労苦に、深甚なる敬意を表するものであります。時代の変化、社会の変化に伴い、学校教育は大きく変わってきております。しかし、一人ひとりの生徒の自己実現を図り、次世代を担う人間を育てるという教育本来の役割にはいささかの变化もありません。それは全ての大人の責任であり、そのために学校と家庭が協力し、同じ思いで子どもと接し、育てることが必要だと考えます。学校との連携を密にしながら、ご家庭でも子どもと触れ合う機会を大切に、我が子の成長を温かく見守っていただきたいと思えます。

松本深志高等学校は創立以来「自治」の精神を校是とし、生徒は互いに切磋琢磨しながら勉学に励むとともに、豊かな人間性を育み、人格の向上と、進路実現を図ってきております。また、創立の精神を引き継ぐ一方で、地域や時代の要請に応え、常に新しい教育も導入し、現在は県教育委員会の「未来の学校」の指定を受け、その研究実践を進めております。新入生の皆さんも、そんな深志高校において、思う存分学び、自分自身を成長させてほしいと願っています。そのためにわれわれ教職員一同、精一杯みなさんの学びを支え、応援してまいります。

さて、入学にあたり、新入生の皆さんにぜひお伝えたいことが二つあります。一つ目は、高校時代の三年間をどうぞ大切に味わっていただきたいということです。新たな部活で頑張るもよし、興味や関心を持っていることや勉強に没頭するもよし。高校生活は行動半径が広くなり、色んな出会いがあり、自分の意志で思考が広がります。しかし、高校三年間という時間はあまりにも限られています。「時は金なり」とともに「時は命なり」です。この三年間の時間をしっかり味わいながら、かけがえのない友人をつくり、勉強

に加え様々な行事や部活でともに汗を流し、限りある時間の中で、自分の良さと改めるべきことに気づいてほしいと願っています。

二つめは、逆境や試練に際し、悩み、考え、対峙していつてほしいということです。逆境や試練は、本来自ら望むものではありませんが、結果としてそのような境遇になってしまう時があります。乗り越えるといっても答えを見つけることは難しいことです。未曾有の東日本大震災から十年余が過ぎました。当時5歳くらいで家族を失った人たちも皆さんと同じ高校生になります。またこの中には、昨年や二年前の豪雨災害で、大きな被害を受けたご家族もあるかもしれません。さらに、一昨年来のコロナ禍により、これまでの暮らしに多大な影響を受けているご家庭もあるかと存じます。そして、君たち自身も中学校における学校生活が、これまでのものとは全く異なるものとなってしまったのではないのでしょうか。

「どうすればこの災害を、コロナ禍を乗り越えることができるのだろう」という問いの前に、答えを見いだせず立ちすくんだ人々は少なくないと思います。皆さんだけではなく、親御さんも先生たちも、そしてこの私も、この問いの前にはなかなか答えを見いだすことができません。一方、思春期真っただ中の皆さんは、仮に災害やコロナ禍と遭遇しなかったとしても、「いったい自分はどのように生きて行けば良いんだろう」とか、「自分は どうしてこんなに弱いんだろう」、などと多くの悩みを抱えるに違いありません。謎が深まる、よくわからなくなる。でも、哲学者の池田晶子さんはその著書「十四歳からの哲学」の中で、こう述べています。

「全然訳がわからなくなりましたっていうなら、君、大成功だよ。わからなくなったからこそ、考えて行けるんだ。大丈夫、考えて行けるよ。だって君には考える精神があるから。」

池田さんは「考える」ということそのものの意味を問い続けた哲学者です。「考える」ことで答えが導き出せなくても、ある種の「手応え」、「生きがい」を感じ、さらに新しい謎にトライし、「手応え」や「生きがい」を感じる。その中で、私たちの中で何かが変わり始めるんだと池田さんは述べています。

高校での「学び」も同様だと私は考えています。高校では、授業や部活、課外活動で知識や技能を習得しながら、その知識技能そのもの、あるいは学んだ方法・過程を用いつつ、「どうすれば、みんなが幸せで暮らしやすい持続可能な社会を形成できるのだろうか」という大きな問いをみんな考えていくこととなるでしょう。一つの課題を解決しようと考えていくと、新たな課題が生じます。新たな課題をまた考える、そうした過程の中で、皆さんが少しずつ変わりながら、少年少女から青年へと成長し、生きる力を身につけていくのだと思います。ぜひ高校時代を通じて「考える学び」を続けて欲しいと願っています。

最後に、ここには、様々な地域で育ってきた多様な仲間が集まっています。自分自身も含め、得意なことも、趣味も、考え方も、夢も違う、多様な仲間がそれぞれの光を放っています。そうした仲間と一緒に学ぶ、意見交換をする、議論を闘わす、外にも目を向け自分の考えを学校外でも試す、そんな姿勢を大切にしてください。今の時代は、自分を伝えつつ、仲間たちと協力して何かを成し遂げる力がとても重要となってきました。自分と意見が違う人と上手に付き合い、自分の意見を伝えながら相手の意をくみ、そして一緒に何かを作り上げる、みなさんのそんな姿を期待します。

世界に目を向けると、今まさに戦火に苦しんでいる人々があり、学びたくても皆さんのように学ぶ環境が整わない子どもたちもいます。いま、この地で学べる幸せをかみしめるとともに、学んだことを、どのように世の中のために生かしていくか、それがみなさんがここでこれから学ぶ意味でもあります。

以上、本日の入学式にあたり、所感の一端を申し述べるとともに、新入生の皆さんが本校で有意義な学校生活を送られることを心から祈念し、式辞といたします。

令和4年4月6日

長野県松本深志高等学校長

石川 裕之